

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人千鳥会	代表者	吉村秀樹	法人・事業所の特徴	要介護度や事業所都合での支援内容の制限、調整は行っていない。登録制で通い・泊り・訪問については限度額がない小規模多機能事業所であるからこそ、例え軽介護度の利用者であっても必要な方に必要な支援を行っている。事業所の定員や体制に応じてではあるが、相談に対し、できることを提案しながら利用者家族と一緒に悩み考えていく事業所でありたいと考えている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	管理者	池田英生		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	1人	0人	1人	0人	3人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	なし	なし	なし	なし
B. 事業所のしつらえ・環境	なし	なし	自由で制限していない事業所の雰囲気がある。ただ、今年度より離設防止のため2か所の出入りにセンサーを設置し、開放とともに音になる仕組み。うち中央廊下側からの出入り時の音に対して、職員があまり意識をしていない様子が感じれる。	利用者の自由な行動は制限しないが、離設や不審者侵入防止のために、事業所内出入りの把握をきちんと行えるようにする。具体的には事業所内に留まらず、併設施設含め全体で、設置したセンサーを有効に活用していく。また館内の入館証を作成し、面会者等の把握に努める。離設行動未然に防いだり不審者侵入等防犯対策も含めて対応していく。
C. 事業所と地域のかかわり	なし	なし	なし	なし
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	前年度は一つの実績としては、宿泊旅行も初めて試み、叶えることができた。今年度も心身の状態に寄り事業所の支援が増えても、馴染みの地域や行事、外出など以前の日常を取り戻す取組みを継	今年度も地域で暮らす中でも、利用者の日常の機会として、宿泊旅行はじめ遠方への外出への取組みを数多く実施できた。また事業所内での支援が増えても、日々の地域での食事会や祭りなどへの参	なし	なし

	<p>続して行っていく。</p>	<p>加支援も継続して行うことができた。</p>		
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>	<p>地域の心配の方等の事例検討、取り組みという点で、事業所としては暮らしのサポートは充分に行ってくれていても、地域の民生委員らが把握できていないことから声があがることもある。個人情報保護の制限もあるが、なんとか情報を共有できればいい。</p>	<p>地域との心配な高齢者への適切な情報共有のため、該当しており事業所で支援している利用者の大きな変化（利用形態等も含め）については、社会福祉協議会に報告相談するなどして連携を深める。また地域連絡会にも参加をできる限り行い、自らの取り組みや共有すべき利用者ケース情報を提議して連携に努めていく。個人情報保護を遵守しながらも、地域における支援の中で適切な情報共有が図れるようにする。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>継続課題として、事業所からの地域への発信を行っていく。行事や講習会など。また防災計画についても、自らの取り組み訓練とともに、自治会区とも引き続き、今後の合同での訓練を見据えて関係作りを行う。また施設事業所自体が、高齢者の介護や福祉に関する部分を担える相談窓口として、機能できるよう日々、利用者支援への実績を重ねるとともに、地域への働きかけも行っていきたい。</p>	<p>淡路市の訓練は一宮地区で実施。その際に合わせて開催や合同・参加はできなかった。施設・事業所内では津波・火災訓練含め防災訓練を実施。津波訓練については、実際に非常階段経由での避難誘導時間を実測するなどした。SNSでも事業所の防災・災害対策について発信した。</p>	<p>継続課題とする。</p>	<p>地域との共同の訓練については、行政が企画する訓練の際に、合わせて実施参加できるようにする。また運営推進会議を通して、事業所の防災対応についても理解をしてもらうため、防災計画を確認しておいてもらう。地域の方が被災した際には、行政との要介護者の避難受け入れ協定も結んでおり、活用してもらえようとする。</p>